

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 10 月 14 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870102948		
法人名	医療法人 椿クリニック		
事業所名	グループホーム つばきの里		
所在地	松山市古川北1丁目25-24 (電話) 089-969-1117		
管理者	泉本 厚子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 8 月 22 日	評価確定日	平成 20 年 10 月 15 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 8 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 6 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 10 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	13.9 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有()円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 8 月 1 日事業所記入)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護 1	2 名		要介護 2	5 名	
要介護 3	5 名		要介護 4	2 名	
要介護 5	3 名		要支援 2	名	
年齢	平均 86.5 歳	最低 72 歳	最高	104 歳	

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	あり	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人が運営するホームは、医療サービスと介護サービスの一体的な提供を行うことにより、トータルなケアが可能であると考えている。ホームを利用することにより生活環境が大きく変化するが、できるだけ在宅時と同様の生活を維持することを考え、情報収集に努めている。また心身の不調等を言葉で表現できない利用者の訴えを見逃さない職員の姿勢は、思いや意向を把握する力にも繋がっている。開設以来6年弱を経過する中で利用者の介護度があがってきており、身体介護に追われる面が強くなってきたが、職員はこの仕事を選択して正解だった、やり甲斐がある、など自分自身の心の葛藤を乗り越え前進していく姿勢が見られ、頼もしい。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

地域との関わり及び災害時の対応の二点について検討した結果、これらを一對のものと考え取り組んでいる。災害時の応援を町内会に依頼するためにも、「まず良い関係作りをしてから助けていただく」と考え、ソーメン流しなどの行事をオープンにしたり、運営推進会議を通して理解を求める等の努力を続け、良い関係に向かっている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

各ユニット長を中心に、全職員の意見を聞いてまとめている。職員は、気づきの機会であると理解し、全てをオープンにして今の自分たちを見て欲しいと考えている。管理者はリーダーに絶大な信頼を寄せており、これを全職員に浸透するよう努力したいと考えている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

会議の運営・進行は全職員が交代で取り組んでおり、定期的に会議を開催し、資料や会議録も保管している。初期の段階では地域住民が欠席することもあったが、会を重ねるにつれ協力を得られ、理解も深まってきている。ホームはアパート等と同様の位置付けであると認識が一致し、ゴミ出しの協力も得られるようになった。心を開くことの大切さを知ったと職員は感じている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

家族の来訪時は必ず声をかけ、利用者の暮らしぶりや介護計画、出納状況などを報告している。年2回の家族会、年6回の運営推進会議、日々の来訪時等で、意見・不満・苦情などを述べる機会はあるが、苦情に近い発言は少ない。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

自治会に加入し、回覧板で地域の情報を得るほか、祭りや盆踊りなどの地域行事に参加したり、ホームの恒例行事であるソーメン流しを地域の方に案内して参加してもらうなど、交流に努めている。近所のパン屋と顔馴染になり運営推進会議のメンバーになってもらうなどの努力もしているが、ご近所との日常的な付き合いまでには至っていない。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム つばきの里

(ユニット名) つばきの里 1F

記入者(管理者)
氏名 泉本 厚子

評価完了日 平成 20 年 7 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域密着サービスについて事業所全体で話し合い、それに基づいた理念を掲げている。 (外部評価) 「医療と介護の十分な連携により、安心して地域の中で暮らす」を基本理念に、利用者日々の生活を全職員で支えている。グループホームが地域に受け入れられることを願い、運営推進会議や行事等あらゆる機会を利用して努力している。	※	グループホームが地域に果たす役割も含めて、更に努力されることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 申し送りやミーティングの際に、理念に基づいた具体的なサービスについて話し合いを行い意識統一をしている。 (外部評価) 理念を達成するため「つばきの里十か条」を全職員で検討し、作成している。これは職業人として当然持つべき姿勢を表現したものであり、毎朝のミーティングで確認し合っている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 入所時や、運営推進会議の中で家族を始め、民生委員や町内会の方に具体的に説明を行い理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近所の商店を利用することで顔なじみとなっている。また、公園等への散歩の際には積極的にコミュニケーションをとっている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) そうめん流しや地方祭りなど行事の際にはチラシなどを配布し地域住民の方に参加を促している。また、地域の盆踊りなどへ参加している。	※	今以上に地域行事に参加をして交流を深めることで、つばきの里の行事にも参加を促していく。
			(外部評価) 祭りや盆踊り等の地域行事に参加したり、ホームの恒例行事であるソーメン流しを地域の方にも案内して参加してもらおうなど、交流に努めている。	※	自治会に加入しており、回覧板で地域の情報を得るほか、近くのパン屋と顔馴染になって運営推進会議のメンバーになってもらうなど努力しているが、日常的なご近所付き合いがあるとまでは言えないため、更なる努力を期待したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 管理者が民生委員や町内会などにはたらきかけ、認知症について・グループホームの役割など理解していただくよう心がけている。	※	はたらきかけを続けていくことで相互の協力体制を整えていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 全職員が自己評価・外部評価を実施する意義を理解している。また、前回までの結果をもとに改善に努めている。		
			(外部評価) 各ユニットのリーダーが中心になり、職員全員の意見をまとめて作り上げている。職員は、評価を気づきの機会と理解しており、全てをオープンにして今の自分たちを見て欲しいと考え、熱心に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヵ月毎に運営推進会議を行い、様々な意見の交換を行っている。 (外部評価) 運営推進会議は2か月に1回開催しており、運営・進行は全職員が交代で取り組んでいる。ホームは、会議を地域の理解を得る良い機会と捉えており、努力を重ねている。ホームをアパートなどと同様の位置付けと認識してもらい、ゴミ出しの協力も得られるようになってきている。心を開くことの大切さを知ったと職員は感じている。		町内会の方や民生委員の方にも積極的に参加をしてもらいグループホームへの理解を深めるとともに、グループホームが地域へ貢献できることなど話し合っている。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 運営、サービスの提供などについて様々なアドバイスをいただいている。それに基づいてサービスの質の向上に努めている。 (外部評価) 運営推進会議をきっかけに、行政との関係は良好で、日常的に相談しており十分なアドバイスも得ている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会等に参加し、理解を深めている。また、利用者への必要性についても話し合いを設け検討している。		研修で学んだことをミーティングの際などで説明を行い、全職員が理解できるよう努めている。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体的・精神的・法制的虐待を見逃さないよう職員間でチェックしあい、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) サービスの開始・変更・停止等を行う際にはしっかりと説明を行い納得していただいている。また、家族の方々が意見・苦情等を訴えやすい環境作り(家族ノートの設置など)に気を配っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の方々が意見・苦情等を訴えやすい環境作りに努めている。また、直接言いにくい事やちょっとした事でも意見交換できるよう連絡ノートを活用している。		家族の方が素直な意見を訴えることができるような環境作りに努めている。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 利用者の状態やケアプラン、金銭出納帳など来援時に説明を行っている。また、遠方の方にはTELやFAXにて近況報告を行っている。 (外部評価) 家族の来訪時は必ず声をかけ、利用者の暮らしぶりや介護計画、金銭出納の報告等をしている。来訪の少ない家族には、電話やファクスを活用している。家族への声かけは、全職員が何時でも行えるよう情報を共有している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 職員は積極的に家族の方とコミュニケーションをとるよう心がけ、意見・苦情等を聞きだす努力をしている。 (外部評価) 年2回の家族会、年6回の運営推進会議、日々の来訪時など意見・不満・苦情等を表出する機会はあるが、苦情に近い発言は少なく、今後も聞く努力を重ねることにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 勉強会やミーティングの際に意見交換の場を設けている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) できる限り利用者・家族の方のニーズに応えられるよう努めている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の入れ替わりを出来るだけ避け、新しい職員が入ったときには他職員が早くなじめるようフォローしている。 (外部評価) 法人が運営する各種事業所間での異動は行っていない。退職する職員が多いこともあったが、今は落ち着いている。新しい職員と利用者との関係は初対面が大切であると考え、相互に好印象が持てるよう、対応には細心の注意を払っている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会などへ参加を促したり、勉強会・ミーティングを行い質の向上に努めている。 (外部評価) 介護の質の向上を目指し、毎月法人全体の研修会を持っている。各事業所が年間計画を立て、「介護職も医療の知識を持つこと」を念頭に、具体的な内容について持ち回りで発表している。外部研修にも積極的に参加しており、参加費の補助もある。		雇用形態にとらわれず、質の向上のため今後も研修会・勉強会への参加を促していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会への参加や、運営推進会議へ他事業所の方へ出席してもらい意見の交換を行っている。 (外部評価) 法人内の各種事業所研修のほか、それぞれのホームの運営推進会議の構成メンバーにもなっている。グループホーム連絡協議会にも加入しており、相互交流の機会が多い。特に管理者は協議会の事務局の役割も担っているため情報も得られやすく、幅広いネットワークも構築している。	※	他事業所の運営推進会議にも積極的に参加して事業所間の交流を深めていく。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 管理者・ユニット長が個々の職員の話聞き、各自のストレスの理解に努め、運営者にも連絡・相談を行い工夫できるようにしている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は日常の業務の報告をこまめに聞き、個々の職員の状態の把握、アドバイスを行っている。また、勉強会・ミーティングを行い、向上心をもって働けるよう努力している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 必ず入所前面談を行い、本人の訴えを確認している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 必ず入所前面談を行い、困っていること、ニーズといった訴えを確認している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面談の際には必ずケアマネージャーにも同席してもらい提供するサービスについて相談している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ショートステイの利用を進めるなど工夫している。急の入所となった場合には家族の方と連絡を取り、面会に来ていただくなどしている。 (外部評価) 家族同伴での見学、ショートステイ利用後の入居など工夫しており、さらに体調に不安のある方には運営法人の病院で受診や入院治療の後に入居するなど、安心して馴染みながら利用できるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 掃除や調理など利用者と職員が同じ時間を過ごし、お互いを共感できるよう取り組んでいる。また、何気ない日常会話も大切にして信頼関係を築けるよう努めている。 (外部評価) 一緒に過ごし、学び支えあう関係を大切にしている。職員は、利用者と共に明るく穏やかな表情で対応している。	※	お互いが支えあい、共に過ごしていけるよう今後も工夫していく。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事への参加や家族会を行い親睦を図っている。また利用者の方々の持つ可能性や細かな変化も話し合い、共に支えていく関係を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 利用者と家族の方が一緒に時間を過ごせる機会を提供し、同じ思い出が作れるよう支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会に来やすい、居心地の良い空間・雰囲気作りをしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士が共に過ごせる空間作りをしている。また、そこに職員も入ることでトラブルの回避にも努めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 同グループのサービス（デイケアやショートステイ）を利用できるようケアマネージャーさんと相談している。また、面会に行ったり、家族の方の相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来る限り個々の意向に沿った対応に努めている。また、自己決定を尊重している。 (外部評価) 利用者同士の会話も含めて、常に利用者の声や態度から思いを把握することに努めている。何か気づきがあれば当日のミーティングで情報を共有し、介護計画の変更もやっている。		個々の訴えをよく聴き、その訴えにある本質的な要望や不安、悩みなどを捉えている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前、もしくは入所初期に本人・家族にアセスメントを行い記録に残し、全職員が把握するようにしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 個々の残存能力や身体状況を見極め、生活歴に基づいた、その人らしい生活が出来るよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の心身状態、家族の方の意見、ニーズを把握し、その人にあった、その人らしい生活を行うためのケアプランを全職員で検討し作成している。 (外部評価) 朝、夕の勤務交代時にスタッフ会議を持ち、情報を共有している。カンファレンスは医師・理学療法士・栄養士を含む多職種から意見が聞けるシステムになっている。家族との意見交換は、来訪時やファクス等を有効に利用している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) カンファレンス・スタッフ会議にてモニタリングを行い、本人の状態に応じて随時見直しを行っている。 (外部評価) 介護計画は3か月に1度の見直しであるが、状況に変化があればその時点で変更している。モニタリングは毎月実施し、利用者の現状が分かり易い様式を使用して記録している。		カンファレンス・スタッフ会議には介護職だけでなく、他職種（医師・看護師・ケアマネージャー・栄養士など）のかたがたにも参加していただき、本人・家族の意見・ニーズを取り入れた見直しを行っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子はもちろん、気付いた細かな変化も記録に残し話し合いを設けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 母体である医療機関の特性を活かし、様々なサービスの提供が行えている。 (外部評価) 運営法人は、医療と介護の一体的なサービスを提唱しており、多くの事業所を展開している。利用者は必要な時に必要なサービスを受けることができる。デイサービスに参加している利用者もいる。		医療と介護の連携により利用者・家族の方が安心して過ごせるよう支援している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 音楽ボランティアの取り入れや、防災・避難訓練を行っている。	※	運営推進会議に警察・消防の方にも参加していただき協力体制を築いていく。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 外出・行事の際にボランティアの支援をお願いしたり、栄養士・看護師等のアドバイスをいただいている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に参加していただき意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 母体である椿クリニック、協力医療機関である井伊歯科を受診している。また、本人・家族の希望がある場合には他の医療機関への受診も行っている。 (外部評価) 入居時に本人及び家族の意向を十分確認している。継続受診中の方や精神科受診中以外の利用者の多くは、母体病院をかかりつけ医としている。他の医療機関を受診する際には「診療情報提供書」により主治医間の連携を図っている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 近所の心療内科へ受診し、診断・相談できる体制をとっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 椿クリニックの看護師と24時間の協力体制が取れている。また、ベテル病院の訪問看護師による定期訪問看護を行っている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 医療機関との連携を密にし、入退院しても安心して過ごせるよう配慮している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 看取りの指針・援助内容などマニュアルを作成しており、入所時に家族の方に説明している。 (外部評価) 看取りに関する指針を家族等に説明している。本人及び家族の強い希望により、看取りを経験している。職員には大きな不安があったが、医師及び看護師の協力・教育もあり、利用者への愛着も強まり全職員で看取りに取り組んだことにより、職員間の結束も強まり、自信にも繋がったと認識している。		看取りについて法人全体で勉強会と行い、ケア方針を共有している

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 勉強会やミーティングにて検討し実施している。また、院長先生や看護師との連携により支援している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 家族・転居先の職員へ情報提供している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人の尊厳を傷つけないよう配慮したケアや言葉がけを行っている。また、個人情報についてもプライバシーの保護に努めている。 (外部評価) 理解力の低下した方や、耳の遠い方への声かけには特に配慮している。職員間では、利用者を子ども扱いしない、「ちゃん」付けで呼ばない、無駄口をたたかない等申し合わせている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 個々の状態に合わせた言葉かけや対応を行い意思疎通を図っている。また、それにより信頼関係を築き、ニーズ・苦情の訴えやすい、かつ自己決定しやすい環境を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 体調や状況に応じて個別に支援している。 (外部評価) センター方式を利用するなど利用者の生活歴の把握を大切に、本人の望む過ごし方を支援することが第一と職員は考えている。利用者の重度化に伴い、一人ひとりに関わる時間の確保に工夫が必要になってきている。		個々の生活のペース・個性を尊重し、利用者本位の生活が営めるよう支援している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 定期的に美容室に行き散髪してもらっている。また、身だしなみも個々の意向を尊重している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々の能力に応じて野菜の下ごしらえ、盛り付け、配膳など協力してもらっている。食事中は音楽をかけたたり会話を楽しめるよう配慮している。 (外部評価) 利用者の重度化に伴って調理そのものに参加してもらう機会は少なくなっているが、後片付けを自分の仕事として楽しく取り組んでいる姿もあった。調査日の昼食ではBGMに合わせて歌ったり、学生時代の思い出話に花が咲いていた。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 今現在、喫煙・飲酒される方はいないが希望があれば対応できるようにしている。嗜好品についても健康面で制限のない方に対しては出来る限り尊重するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 個々の排泄パターンにあわせ声かけ・誘導を行っている。必要に応じて、腹部マッサージ等を行い自然排便できるよう支援している。		身体状況・排泄状況をモニタリングし、ハイセットパターンの見直しを行っている。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 2日毎の入浴を基本としながら、本人の希望を尊重している。入浴中も歌を歌うなどして楽しめるよう工夫している。 (外部評価) 入浴を拒否する場合も、トイレから浴室へ誘導したり、体重測定をしましょうと浴室に誘う等、工夫しながら気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。入浴中の楽しい会話から多くの情報を得ることができるので、職員にとっても大切な時間となっている。		季節や個々の発汗状況に応じて入浴を促している。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の状態を把握し、安息・安眠できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 役割を持つことで自身が社会の一員であることを認識できるよう支援している。また、運動会やお花見、そうめん流しなど季節に応じた行事を提供したり、日々の余暇時間の充実を図っている。 (外部評価) 昼食後の片付けを一手に引き受けている利用者がおられたが、その表情は生き生きしていた。他の利用者もそれぞれの居場所でおしゃべりしたり、BGMにあわせて歌を口ずさんだりするなど、穏やかな雰囲気の中で思い思いに過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には職員で管理しているが、買い物や散歩の際には個々で所持・使用できるよう支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 利用者の状態・様子・気候に応じて散歩やドライブ・買い物など外出できるよう心がけている。 (外部評価) 年間行事だけでなく、日々その人にあった楽しみ方を工夫している。公園、本屋、パン屋、スーパーマーケットでの買い物、ドライブを兼ねて美容院に行く、喫茶店にケーキを食べに行くなど、戸外に出かける支援に努めている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族の方と連携・協力して出来る限り希望に添えるよう工夫している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話・手紙のやり取りは自由に行えるよう支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 居心地のよい空間作りを心がけ、家族の方・友人が自然に訪問できるよう配慮している。面会時間は設けていない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 院内勉強会や研修会などで学び、全職員が理解できている。また、職員間で常に確認しあっている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 個々の行動パターンを把握し、個別の見守りを行っている。職員は鍵をかけることの弊害について理解できている。 (外部評価) 鍵をかけないケアの大切さを職員は十分理解しており、帰宅願望や外出願望のある利用者の行動パターンやサインを把握して、見守りながら対応している。		職員同士で連携をとり、利用者一人ひとりの居場所、状態を確認している。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) さりげない声かけや見守りを行う事で把握できている。夜間は定期的に巡回を行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 保管・管理は個々の状態、状況に応じて行っている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 個々で・チームとして知識を得て、リスク回避に努めている。		ヒヤリハット・事故報告書をただ書くのではなく、今後に活かし予防対策を検討している。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 勉強会・ミーティング等で応急手当・初期対応が出来るよう知識・技術を習得している。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 運営推進会議の際、地域との連携についてなど確認している。また、消防署立会いの下、避難・消防訓練を実施している。 (外部評価) 年2回、消防署指導の下で避難訓練を実施しているが、2階からの誘導には更なる努力が必要と考えている。地域の協力を町内会に依頼したり、運営推進会議を通してより具体的な検討を始めている。		定期的に訓練を行い災害時に備えていく。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 個々のリスクはケアプランに取り上げ、家族の方に状態と対応策を説明している。また、状態に変化があった場合には見直しを行い、その都度家族の方に報告・説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 口頭と文書にて申し送りを行い情報を共有している。また、細かな目配り・気配りで異常の早期発見に努めている。異常発見時はDrへ報告し、指示を仰ぎ対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 間違いのないよう管理はきちんとしている。また用法については処方箋を読んだり、看護師に確認するなどして理解に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取量や乳製品の摂取など色々と考慮している。また、トイレ時に予め排便を促す声かけをしたり腹部マッサージを行うなどしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを促している。個々の状態に応じて見守り・支援している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事・水分量をチェックし、一日トータルを把握・申し送りしている。また、献立や食事形態などは栄養士さんの指導を受けている。 (外部評価) 暑い時期の水分の取り方を話し合い、実際のケアに活かしている。食事・水分摂取量もチェックし、記録に残している。記録表の様式は工夫され、分かりやすいものとなっている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 勉強会・ミーティングで感染症について学び、予防対策を徹底している。家族・面会の方にもうがい・手洗い・消毒を促している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材は買いだめ・作り置きをしないよう注意している。調理用具は除菌・漂白を徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先には季節の花を植えるなどしている。また、隣近所に迷惑とならないよう配慮している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に応じた飾り付けを行ったり、季節の花などを置くようにしている。 (外部評価) 共用空間には大きなソファや机があり、空間が広いとは言えないが、転倒防止に繋がっている。居室の名札やトイレの位置等は大変分かりやすい。窓やドアも開放しており、清潔感があり心地よい。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビング・廊下にソファを設置し、個々の居場所作りを支援している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 筆筒やベットなど自宅で使用していた物を持ち込み、これまでの生活が継続できるよう支援している。 (外部評価) 本人及び家族と相談しながら、居室を整備している。「嫁入り道具の鏡台です」と話す利用者もおり、それぞれ個性的な雰囲気となっている。感染症への対策も兼ね、共用空間を含め掃除が行き届いている。		家族の方に協力していただき、思い出の品や写真などを持ってきてもらっている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 定時に換気を行い、温度・湿度にも注意している。また、加湿器を使用するなど乾燥にも注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 安全確保に配慮した上で、出来る限り自立した生活が営めるよう、手すりの設置、イス・テーブル・ベットの高さの調節など行っている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 個々の状態に合わせた声かけ・支援を行っている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花を植えたり、日光浴が出来るように配慮している。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	アセスメントや日常の様子観察、本人・家族の方の訴えにより把握している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	お茶・おやつの時間などコミュニケーションをとっている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	それぞれ個々の生活パターンで過ごしている。職員は個別に支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	声かけやケア提供時に何気ない言葉をかけてくれている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	出来る限り本人の意向に沿えるよう努めているが完全ではない。家族の方とも協力して行っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	母体である椿クリニックとの連携により、安心して過ごさせている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	法人全体の多機能なサービスを提供することで、安心して暮らせている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	1 ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	積極的にコミュニケーションをとることで信頼関係を築けている。しかし、面会の少ない家族の方には電話やFAX・手紙といった情報交換のみになっており、十分とはいえない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	特定の方が面会にこられているが、ほとんどないのが現状。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	回数を重ねるごとに地域の方(町内会の方・民生委員・近所の方など)にも参加いただけている。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員間で何でも言い合える関係が築けていない。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	表情や仕草、様子を見た上では満足していると思われる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	直接訴えたりすることはないが、満足されていない家族の方もいると思われる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム つばきの里

(ユニット名) つばきの里 2F

記入者(管理者)
氏名 泉本 厚子

評価完了日 平成 20 年 7 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) わかりやすい言葉で理念を作り上げ目立つところに掲示している (外部評価) 「医療と介護の十分な連携により、安心して地域の中で暮らす」を基本理念に、利用者日々の生活を全職員で支えている。グループホームが地域に受け入れられることを願い、運営推進会議や行事等あらゆる機会を利用して努力している。	※	グループホームが地域に果たす役割も含めて、更に努力されることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 全職員が理解した上で取り組む事ができるように日々の努力が必要 (外部評価) 理念を達成するため「つばきの里十か条」を全職員で検討し、作成している。これは職業人として当然持つべき姿勢を表現したものであり、毎朝のミーティングで確認し合っている。		毎朝の申し送り時、確認していく
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議への参加を声かけ、理解してもらえ内容とし、少しずつ協力いただいている	※	※運営推進会議の参加者を増やし、理解してもらえ場とする

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩の際こちらから声をかけ、挨拶している。近所のお店（パン屋、和菓子屋、ケーキ屋）を利用して顔なじみになっている		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 毎年、恒例行事としてそうめん流しを行っている。地方祭には、地区の子供達の獅子舞、神輿も来てもらっている。小中学校の職場体験学習の受け入れ、子供達との交流を図っている	※	※毎年、近隣の方の参加が少しずつであるが増えてきている、恒例行事参加が根付くよう常に声かけ、顔なじみの関係を深めていく
			(外部評価) 祭りや盆踊り等の地域行事に参加したり、ホームの恒例行事であるソーメン流しを地域の方にも案内して参加してもらうなど、交流に努めている。	※	自治会に加入しており、回覧板で地域の情報を得るほか、近くのパン屋と顔馴染になって運営推進会議のメンバーになってもらうなど努力しているが、日常的なご近所付き合いがあるとまでは言えないため、更なる努力を期待したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に地域のいろいろな役員の方々に参加していただき、グループホームの役割など説明し、理解していただいている	※	町内会、老人会などで、地域のために協力できることがあれば、参加し、地域との交流も図っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員は毎月各自自己評価し、介護力の向上につなげている、また、毎年行われている外部評価の結果がより良いものになるよう努力をしている		外部評価の結果を全職員が把握し全員で改善へと取り組んでいく
			(外部評価) 各ユニットのリーダーが中心になり、職員全員の意見をまとめて作り上げている。職員は、評価を気づきの機会と理解しており、全てをオープンにして今の自分たちを見て欲しいと考え、熱心に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月毎に運営推進会議を開催している (外部評価) 運営推進会議は2か月に1回開催しており、運営・進行は全職員が交代で取り組んでいる。ホームは、会議を地域の理解を得る良い機会と捉えており、努力を重ねている。ホームをアパートなどと同様の位置付けと認識してもらい、ゴミ出しの協力も得られるようになっている。心を開くことの大切さを知ったと職員は感じている。		会議の内容、当日の進行など全職員が交代で取り組みグループホーム全体の向上につなげていく
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 自分達が市町村に出向き、問題点にどう関わり、今後の向上につなげるか、アドバイスをいただいている (外部評価) 運営推進会議をきっかけに、行政との関係は良好で、日常的に相談しており十分なアドバイスも得ている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度の研修を受け、全職員が理解できる様にしている		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングで「虐待とは何か！」を細かな点まで話し合い、介護の仕事をしていく上で絶対にしてはならない事だと注意、徹底している		職員各自、またはお互いに注意し話し合い、虐待の無い対応をしていく

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に詳しく細かな点まで説明、納得、あるいは同意書にサインをいただいている		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情処理の書類を作成、改善に役立っている		利用者のちょっとした言葉にも耳を傾け何がしかのサインを見逃さずより良い生活の場を提供していく
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 来苑の際、必ず近況報告。ケアプランの説明を行っている。また、ほとんど来苑の無い家族には、こちらから連絡し定期的に報告している (外部評価) 家族の来訪時は必ず声をかけ、利用者の暮らしぶりや介護計画、金銭出納の報告等をしている。来訪の少ない家族には、電話やファクスを活用している。家族への声かけは、全職員が何時でも行えるよう情報を共有している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来苑の際の近況報告時、家族の要望を必ずお聞きしている。また、家族会などで気軽に話のできる場を作っている (外部評価) 年2回の家族会、年6回の運営推進会議、日々の来訪時など意見・不満・苦情等を表出する機会はあるが、苦情に近い発言は少なく、今後も聞く努力を重ねることになっている。		ほとんど来苑の無い家族には、本人に手紙を書いてもらうなど、近況報告の方法を工夫している

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 勉強会、ミーティングの際、自由に意見が言える場を持っている		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の状況に合わせた対応を行っている		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 新しい職員が入った時には、他職員がフォローし配慮している (外部評価) 法人が運営する各種事業所間での異動は行っていない。退職する職員が多いこともあったが、今は落ち着いている。新しい職員と利用者との関係は初対面が大切であると考え、相互に好印象が持てるよう、対応には細心の注意を払っている。		利用者が不穏状態を引き起こすことの無いように工夫し、努力していく
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 勉強会を定期的に行っている (外部評価) 介護の質の向上を目指し、毎月法人全体の研修会を持っている。各事業所が年間計画を立て、「介護職も医療の知識を持つこと」を念頭に、具体的な内容について持ち回りで発表している。外部研修にも積極的に参加しており、参加費の補助もある。		研修会への参加を促している

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 運営推進会議に他事業所の方に参加をしていただいている。また、グループホーム連絡協議会主催の研修会へ参加し交流をもっている (外部評価) 法人内の各種事業所研修のほか、それぞれのホームの運営推進会議の構成メンバーにもなっている。グループホーム連絡協議会にも加入しており、相互交流の機会が多い。特に管理者は協議会の事務局の役割も担っているため情報も得られやすく、幅広いネットワークも構築している。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 法人全体のミーティングや勉強会、毎日の申し送り時に細かなアドバイスあり。運営者は、早め早めの対応に取り組んでいる		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は、定期的な勉強会、ミーティングを行い各職員のレベルアップを図っている。また、毎日の報告を受け、把握し、アドバイスしている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 運営者は、定期的な勉強会、ミーティングを行い各職員のレベルアップを図っている。また、毎日の報告を受け、把握し、アドバイスしている		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居以前に必ず、話し合いの場を持っている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 同グループ内にディケア、小規模多機能施設ほのぼのホームも併設されているため、それぞれの部署の職員も交えて検討し、対応している		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人と家族共に見学に来ていただくことから始めている。また、入所前のショートステイの利用できるような体制も整えている (外部評価) 家族同伴での見学、ショートステイ利用後の入居など工夫しており、さらに体調に不安のある方には運営法人の病院で受診や入院治療の後に入居するなど、安心して馴染みながら利用できるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者の能力に応じた内容のお手伝いをさせていただいている。業務に追われがちであるが一日のうちの中で短時間でも一緒に過ごせる時間をとっている。 (外部評価) 一緒に過ごし、学び支えあう関係を大切にしている。職員は、利用者と共に明るく穏やかな表情で対応している。		何事も任せっ放しにするのではなく、一緒にしながらお互いの信頼関係を深めていく
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来苑時には、必ず近況報告、今後の方針についても話し合い進めている。遠方でなかなか来られない家族さんにはFAX、電話で詳細を報告しトラブルとならないようにしている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) こまめに電話連絡し、疎遠にならないようにしている		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会に来やすい雰囲気づくり、面会時間についても配慮している		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者一人一人に合わせた役割、お手伝いを提供していく中で、お互いが助け合う関係を支援していく		行事に合わせた共同作業の提供 毎日のレクリエーションの時間の中で利用者の残存能力の低下を予防していく
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退去されても必要に応じて面会に行ったり、家族の相談に応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 自分自ら訴えられることの出来ない人がほとんどの為、毎日の生活の中で本人の望んでいること、嫌がっている事を読み取り、職員間で話し合い、早め早めの対応をしている (外部評価) 利用者同士の会話も含めて、常に利用者の声や態度から思いを把握することに努めている。何か気づきがあれば当日のミーティングで情報を共有し、介護計画の変更も行っている。	※	利用者のちょっとした言葉にも耳を傾け何がしかのサインを見逃さずより良い生活の場を提供していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前に家族、本人から生活歴などの情報収集をしている。 また、前利用施設からの情報も得ている		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一日の観察、記録した上で、毎日の個々のリズム、生活内容の申し送りをしている		体調不良時には、特に注意し、悪化の予防をしていく
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 日々のスタッフ会議を基に家族の意見も聞きケアプランを作成し、本人から訴えられない人がほとんどの為、日常生活、生活の中から感じ取り、理解していく。 (外部評価) 朝、夕の勤務交代時にスタッフ会議を持ち、情報を共有している。カンファレンスは医師・理学療法士・栄養士を含む多職種から意見が聞けるシステムになっている。家族との意見交換は、来訪時やファクス等を有効に利用している。		つばきの里の職員だけでなく、常に医師、ケアマネジャー、看護師、栄養士といったいろいろな職種の方々からアドバイスをもらいケアプランの作成に役立っている
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 変化に合わせてその都度、スタッフ会議を行い、現状のケアプランにプラスしたり変更している (外部評価) 介護計画は3か月に1度の見直しであるが、状況に変化があればその時点で変更している。モニタリングは毎月実施し、利用者の現状が分かり易い様式を使用して記録している。		職員だけでなく、家族のかたにも相談し、意見をもらってよりよい計画作成に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日中、夜間共に個別記録をし、毎日の申し送りに活かしている		毎日の申し送り（情報の共有）の徹底
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 医療機関が母体のため、その特性を活かし、個々の状態に対応できる支援が来ている (外部評価) 運営法人は、医療と介護の一体的なサービスを提唱しており、多くの事業所を展開している。利用者は必要な時に必要なサービスを受けることができる。デイサービスに参加している利用者もいる。		医療と介護の連携という特徴を生かし、体調不良の方の早期発見、早期治療をし、利用者、家族がより安心して生活できている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 消防署立会いの下、消防訓練、非難訓練を行っている。また、毎月一回の音楽ボランティアを楽しみにしている		近くの公園に出かける機会をできるだけふやし、子供たちと交流できる場を増やすよう努力している。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) ディケアの行事に参加していただいている。また、椿まつりなど、外出の際には、ボランティアの支援をお願いしている		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に毎回参加していただき意見交換している		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 母体が医療機関のため連帯が取れている。また、必要に応じて他の医療機関に受信できるように対応が出来る (外部評価) 入居時に本人及び家族の意向を十分確認している。継続受診中の方や精神科受診中以外の利用者の多くは、母体病院をかかりつけ医としている。他の医療機関を受診する際には「診療情報提供書」により主治医間の連携を図っている。		かかりつけの精神科、歯科もあり受診を支援している
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 近くの心療内科、精神神経科の医師の診断や治療が受けられるようになっている		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 母体が医療機関のため、定期受診、検査をしており経過を家族に報告している。また、24時間看護師との協力体制が取れている		些細な事でも看護師に相談できるため、利用者、家族に共に安心している
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 母体が医療機関のため、協力体制あり、連携がとれ対応出来ている		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 対応マニュアルを作成しており、入所時に家族にも説明している (外部評価) 看取りに関する指針を家族等に説明している。本人及び家族の強い希望により、看取りを経験している。職員には大きな不安があったが、医師及び看護師の協力・教育もあり、利用者への愛着も強まり全職員で看取りに取り組んだことにより、職員間の結束も強まり、自信にも繋がったと認識している。		看取りについては、看護師などいろいろな部署の職員と家族との話し合いの場を持ち理解協力を得ている

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 随時、勉強会、ミーティングで話し合い、取り組む姿勢である	※	職員全員の理解を深め、家族と協力体制を作っていく。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 他の事業所に移られた場合、アセスメント、ケアプランの内容など情報提供している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個々に対応、声かけの際には、言葉遣いに配慮している。 内容によっては、居室で話すなどの対応をしている (外部評価) 理解力の低下した方や、耳の遠い方への声かけには特に配慮している。職員間では、利用者を子ども扱いしない、「ちゃん」付けで呼ばない、無駄口をたたかない等申し合わせている。		プライバシーの保護、個人情報の取り扱いに十分注意し、家族へも説明し協力を得ている。 特に、電話での問い合わせなどには、十分注意している
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 個々に合わせた声かけをしている、方言を利用したり、ジェスチャーなどで本人との意思疎通を図り、支援している	※	※自分から何かを訴えることの出来ない人がほとんど為、表情、ちょっとした言葉、行動をすばやくキャッチしていく

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日その日の状況や体調に合わせて、無理なく希望に沿った支援をいている。 (外部評価) センター方式を利用するなど利用者の生活歴の把握を大切に、本人の望む過ごし方を支援することが第一と職員は考えている。利用者の重度化に伴い、一人ひとりに関わる時間の確保に工夫が必要になってきている。		その人の生活歴を把握し、支援している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 定期的に美容室に出かけ、本人の望む髪形にしている。		最近では、車窓からの景色で季節の移り変わりを感じとり、車内での話が盛り上がるなど、利用者の楽しみとなっている。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の下ごしらえ、配膳、盛り付け、食器洗いなど、その人の能力に合わせて役割分担している。また、食事中的会話も食べる意欲がわくような内容にと配慮している。 (外部評価) 利用者の重度化に伴って調理そのものに参加してもらう機会は少なくなっているが、後片付けを自分の仕事として楽しく取り組んでいる姿もあった。調査日の昼食ではBGMに合わせて歌ったり、学生時代の思い出話に花が咲いていた。		介助の必要な方への声かけの工夫、楽しんで食べることのできるような雰囲気づくりに配慮している。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 現在、飲酒、喫煙者はいないが、希望があれば対応できるようにしている。		家族会での食事の際、そうめん流しなどの行事などでは、飲酒を楽しまれる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を活用。個々のパターンに合わせて誘導、腹部マッサージ、肛門マッサージを行うことで自然排泄がみられるように支援している。		陰洗をこまめに行い、尿路感染の予防。または、羞恥心で拒否されることのないよう常日頃の信頼関係を大切に開くようにしている。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴前に必ず声かけし、本人の希望を聞いている。 (外部評価) 入浴を拒否する場合も、トイレから浴室へ誘導したり、体重測定をしましょうと浴室に誘う等、工夫しながら気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。入浴中の楽しい会話から多くの情報を得ることができるので、職員にとっても大切な時間となっている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 年齢やその人の体調に合わせ、臥床にて休息できるようにしている。		特に食後、入浴後には、休息を声かけ、実行している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 誕生会、お花見、クリスマス会などの楽しみ事を提供。また、個々の能力に応じ一日のうちの役割分担ができています。 (外部評価) 昼食後の片付けを一手に引き受けている利用者がおられたが、その表情は生き生きしていた。他の利用者もそれぞれの居場所でおしゃべりしたり、BGMにあわせて歌をロズさんだりするなど、穏やかな雰囲気の中で思い思いに過ごしている。		家族をまきこんでの外出の機会も増やしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 普段は、ホームで管理している。 外出の際、自分で財布を持つなど、個々に合った支援をしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 個々の状態に合わせ、外出できるように心がけている。 (外部評価) 年間行事だけでなく、日々その人にあった楽しみ方を工夫している。公園、本屋、パン屋、スーパーマーケットでの買い物、ドライブを兼ねて美容院に行く、喫茶店にケーキを食べに行くなど、戸外に出かける支援に努めている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族の理解、協力を得て自宅に戻る、食事に出かけるなど 支援している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の言葉を下書きしたり、代筆したりと支援している。 また、家族の協力を得て、いつでも電話してよい状況を作っている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時間について制限していない。訪問があった場合には、配慮できている。		要望があれば、ホーム内で一緒に食事できる体制にある。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について理解できている。また、職員間で常に確認し合っている。		特に、車椅子使用者へは、日中ソファに移っていただく、ベットにて休息していただくなど注意している。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関、居室に施錠していない。常に利用者の位置確認できているが、1名のみ不穏時に窓から物を投げ落とす、出窓に足をかけるなど危険行為あり、家族に説明、同意了解のもと不穏時のみ施錠している。 (外部評価) 鍵をかけないケアの大切さを職員は十分理解しており、帰宅願望や外出願望のある利用者の行動パターンやサインを把握して、見守りながら対応している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員間で常に声掛け合い、把握できている。夜間は、個々の状態に合わせて巡回している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 過剰管理にならないように注意している。注意が必要な場合には、職員がその物品の置き場所を把握、使用時の見守りを行っている。		家族に保管、管理しなければならないことを説明、理解協力をしていただく。また、職員は、保管、管理することが最適対応でないことを理解し、見守りを怠らない。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハットや自己報告書は、記載するだけでなく、同じ事故を二度と起こさないための取り組みと認識している。		勉強会、研修会に参加する。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 応急手当、初期対応の勉強会を開いている。		緊急時、あわてて間違わないように、対処方法を掲示している。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 運営推進会議の際、地域への協力を呼びかけている。また、消防署立合いのもと、非難訓練を行っている。 (外部評価) 年2回、消防署指導の下で避難訓練を実施しているが、2階からの誘導には更なる努力が必要と考えている。地域の協力を町内会に依頼したり、運営推進会議を通してより具体的な検討を始めている。		定期的に訓練を行い、万が一に備えている。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 遠方や疎遠の家族あるため、FAXや電話で連絡を取っている。また、緊急時には、松山在住の身内の方の連絡先を明確にしている。		来苑時には、全職員が対応できるように申し送りを徹底している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 一日2回の体調チェック時には、血圧、体温だけでなく、全身状態を確認している。また、異変発見時には、即、Drに報告、指示をもらえることで早期対応できている。		24時間体制で、看護師に相談できる体制にある。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬確認できている。また、薬の変更があれば、申し送りし全職員が把握できている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表を活用。日中の活動量のチェック、起床時のコップ1杯の牛乳、センナ茶の飲用。個々に合わせた腹部マッサージ、肛門マッサージ、毎朝定時のトイレ誘導を行っている。		認知症と便秘の密接な関係を全職員が理解できるように勉強していく。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを行っている。できる方は、自分でしていただくが、仕上げは口腔内確認とともに職員が行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量は、チェック表を活用。一日のトータルで確認、申し送りしている。また、個々の合わせた食事形態をとっており、栄養士の指導も受けている。 (外部評価) 暑い時期の水分の取り方を話し合い、実際のケアに活かしている。食事・水分摂取量もチェックし、記録に残している。記録表の様式は工夫され、分かりやすいものとなっている。		献立が、ワンパターンにならないよう、全職員がヶ月ごとにメニューを作成、栄養士のチェックを受けている。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 徹底して行っている。入り口に協力を求める掲示をしている。また、来苑者には、必ず手洗い、うがいを声かけ、徹底できている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理器具、食器は、除菌、漂白、食洗機を使用。食材の鮮度、冷凍物の解凍方法に十分注意している。また、冷蔵庫内の衛生チェックもしている。		台所全体の清潔の維持、テーブル、椅子、床など、毎食後掃除、除菌している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先には、季節に応じて、花の植え替えを行っている。また、近隣の迷惑とならないよう、庭の手入れ、掃除を行っている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 観葉植物を置いたり、季節によって、壁画をかえている。 (外部評価) 共用空間には大きなソファや机があり、空間が広いとは言えないが、転倒防止に繋がっている。居室の名札やトイレの位置等は大変分かりやすい。窓やドアも開放しており、清潔感があり心地よい。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビング内のソファの位置は、季節によって模様替えしているが、利用者と相談しながら決めている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 以前より使用していた家具を持ち込まれている。壁には、家族の写真、出窓には花や観葉植物が置かれている。 (外部評価) 本人及び家族と相談しながら、居室を整備している。「嫁入り道具の鏡台です」と話す利用者もおり、それぞれ個性的な雰囲気となっている。感染症への対策も兼ね、共用空間を含め掃除が行き届いている。		利用者本人が、自分も物と認識し、安心して過ごせる居室であるように、家族にも協力いただいている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 湿度計、気温計を設置。換気時は、記録する。 冬場には、加湿器を設置、乾燥にも注意している。		一年通して、常に快適な状態で過ごせるように支援している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 浴槽内の滑り止めマット、手すりの設置。外出時、座って靴の履き替えができるように椅子の設置。ベットにも、個々に合った手すりを設置している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室入り口に、表札がわりの写真、名札を掲示している。また、ジェスチャーやさりげない声かけで本人の不安や混乱を予防している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 洗濯物を干したり、ベンチを置いて、外でお茶が楽しめるように工夫してある。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	記録や家族との情報の共有により、つかめている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	おやつ時、食事の時間など、ゆっくりとすごせるようにしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	意思表示困難な1名を除いては、個々のペースで生活できるよう工夫している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	利用者からの感謝の言葉やうれしそうな表情、意欲的な行動がみられる。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	行きたい所へは、なるべくでかけられるように配慮しているが、外出や散歩にでかけることを「しんどい」と拒否される方が多い。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	母体である病院の支援あり。家族会などの行事には、Drも参加されるため、利用者、家族ともに、安心されている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	法人全体の他機能のサービスを受けられる状態にあるため、安心して暮らせている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	本人と疎遠な家族や遠方の家族あり、信頼関係より、任せっぱなしがみられる。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	家族の方以外には、ほとんど来られない。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	近隣住民とのつながりが、まだ少ない。
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	介護力の違いがある。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	不穏状態が少なくなって、全員の表情の明るさ、穏やかさがでてきており、落ち着いている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族から、本人の様子をみて、感謝されることが多い。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

医療と介護の連携プレーができることにより、利用者、家族ともに安心していただけるグループホームです。